

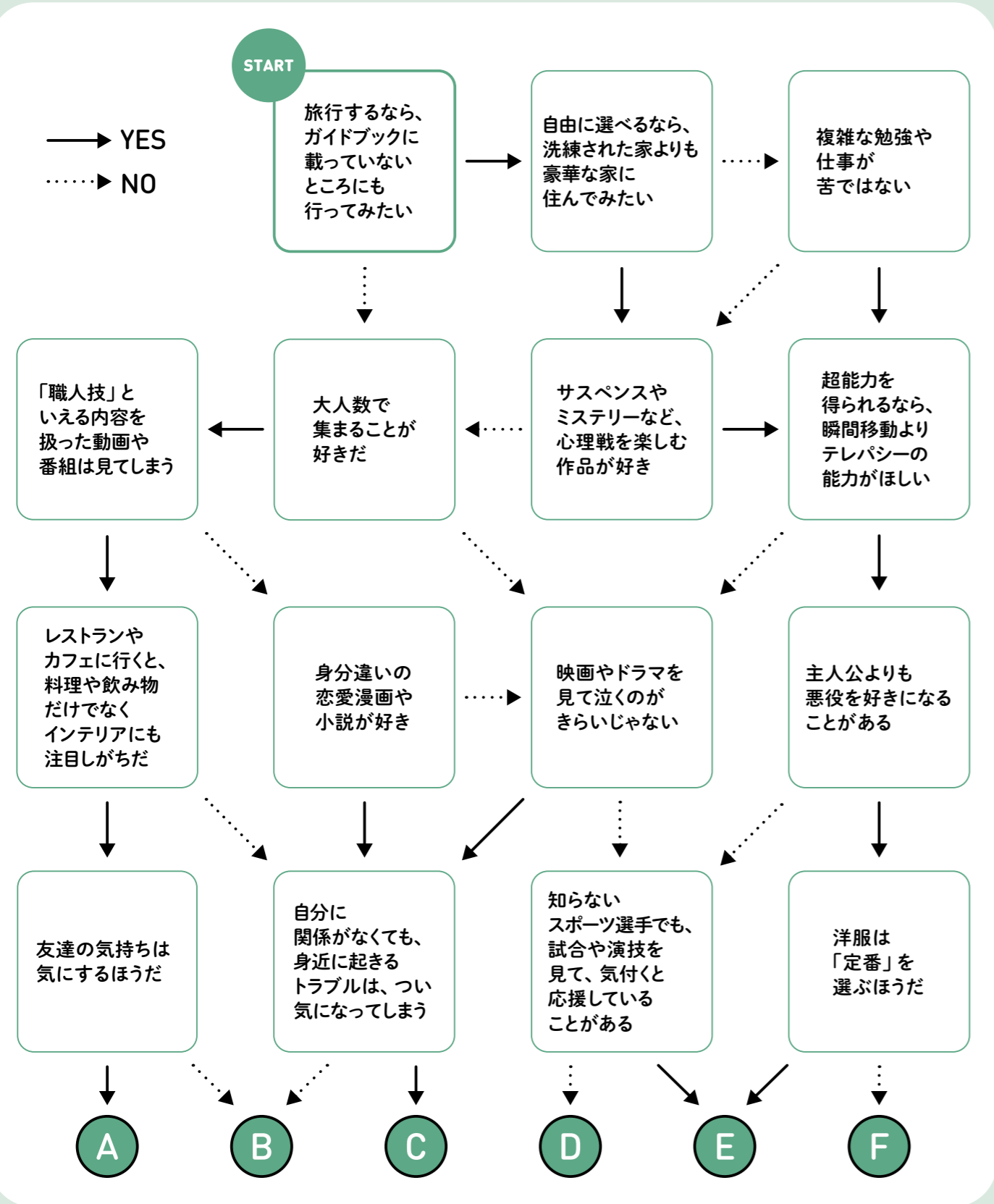
# 音楽診断

## 第14回 ヴェルディの名作オペラ編

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第14弾。「オペラ王」とも呼ばれるヴェルディの名作オペラ6曲から、あなたにおすすめの作品をご紹介します。



監修・解説=岸 純信  
Text=Suminobu Kishi



### ジュゼッペ・ヴェルディ(1813年~1901年)

19世紀中盤からイタリアのオペラ界の頂点に立ったジュゼッペ・ヴェルディ。ドイツのワーグナーと肩を並べたが、唯我独尊のワーグナーと違って、ヴェルディは同時代の他の作曲家の作風に常に注目し、良いと思った他者のアイデアはすぐに取り込んで、自分なりに発展させるといった曲作りを行った。結果、彼のオペラでは音楽表現が非常に多彩になり、大勢の人々が出る賑やかな見せ場から、孤独な人間の内面に踏み込むしみじみとしたシーンまで様々な境地を作り上げ、多くの人に共感される名作をたくさん遺している。



#### あなたにぴったりの作品は？

**A** 悲恋を描いた名作  
『椿姫』(乾杯の歌)  
(初演:1853年/ヴェネツィア、フェニーチェ劇場)

19世紀のパリで、富裕なパトロンを得て暮らす若い女性と純朴青年の悲恋を描く『椿姫』。主人公ヴィオレッタは、病気の回復を祝う夜会で、初対面の青年アルフレードが自分を熱愛していると知る。しかし、「パトロンも居る私なのに、この人は世間知らずだわ」と感じて、笑って相手にしないが、青年がたまたま即興で口にした『乾杯の歌』(第1幕)に心が動き、自分もその歌を受け継いで歌いながら、彼の素直さにどんどん惹かれてゆく。



**B** 古代エジプトが舞台の愛の物語  
『アイダ』(凱旋行進曲)  
(初演:1871年/カイロ歌劇場)

古代エジプトとエチオピアの対立をドラマの背景とする『アイダ』は、戦勝国エジプトの將軍ラダメスと敗戦国エチオピアの王女アイダの恋愛を通じて、「平和を望む心」を音楽で豊かに描いた一作。第2幕の『凱旋行進曲』は、戦勝を声高らかに祝う民衆が舞台を埋め尽くす壮麗な見せ場だが、身分を偽ってエジプト王女の女奴隷になっているアイダは、恋人ラダメスの無事を喜ぶ一方で、敗れた祖国の苦しみを想い、独り嘆いている。



**C** 息をもつかせぬ緊迫のストーリー  
『運命の力』(序曲)  
(改訂版初演:1869年/ミラノ、スカラ座)

18世紀スペインの侯爵令嬢レオノーラが、南米の血を引くアルヴァーロとの恋を反対され、駆け落ちする際に銃が暴発して父親を死なせたことで、兄のカルロに「親の仇!」と命を狙われる悲劇。離れ離れの恋人たちは最後に再会するが、その直前、兄のカルロがアルヴァーロとの決闘で傷を負い、死ぬ寸前に妹を刺してしまう。この序曲は、人々の過酷な運命を金管と弦楽器で鋭く表現したもの。ハープの優しい響きは天の眼差しを象徴する。



**D** ドラマティックな展開に引き込まれる  
『イル・トロヴァトーレ』(鍛冶屋の合唱)  
(初演:1853年/ローマ、アポロ劇場)

15世紀のスペインで、生き別れになった兄弟が、実の血縁関係を互いに知らないまま、独りの女性を巡って争う悲劇。兄は伯爵家の跡取りになり、弟は流浪の民ロマの男として成長する。この『鍛冶屋の合唱』は第2幕でロマの男女が高らかに歌い上げる賑やかなコーラス。夜明け近く、焚火の前で人々は、加熱した金属を鍛えるべく、鉄床の上で叩きながら、朗らかに声を合わせる。荒々しい歌声と打楽器の華々しさが絡み合う名場面である。



**E** 美しい旋律で彩られる傑作オペラ  
『リゴレット』(女心の歌)  
(初演:1851年/ヴェネツィア、フェニーチェ劇場)

16世紀イタリアの大貴族、マントヴァ公爵は女好きの若者で、次々と恋愛の相手を変えてしまうという罪な男。彼が新しく目を付けたのは、お抱えの道化師リゴレット(背中に病を持つ)の美しい娘ジルダ。しかし、彼女が自分に夢中になった途端、公爵は次の相手を探すべく、美女がいると噂の酒場に出向き、「女心は風の中の羽のように軽やかに舞う」と鼻歌を歌う(第3幕)。ヴェルディのオペラで最も人気の高い、軽妙な一曲である。



**F** ヴェルディの集大成  
『オテロ』(柳の歌)  
(初演:1887年/ミラノ、スカラ座)

15世紀末。ヴェネツィア共和国の將軍であるオテロは、黒人の身でキプロス総督にまで出世した偉大な軍人だが、彼の部下ヤーゴは、後輩カッシオに目をかける総督を憎み、その妻デズデモナがカッシオと不倫しているという嘘をオテロに信じ込ませる。結果、総督は人々の前で妻を侮辱。その夜、デズデモナは独り、昔の侍女バルバラの可哀そうな身の上を思い出し、彼女が歌った『柳の歌』をロずさみ、その境遇を自ら重ねてゆく(第4幕)。



岸 純信(オペラ研究者)

1963年生まれ。『音楽の友』『レコード芸術』『音楽現代』など雑誌や公演プログラムに寄稿。CD及びDVD解説多数。NHK教育『ららら♪クラシック』、NHK-FM『オペラ・ファンタスティカ』にたびたび出演。新国立劇場オペラ専門委員。静岡国際オペラコンクール企画運営委員。大阪大学外国語学部非常勤講師(オペラ史)。